



歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

歯学部創設30周年記念行事を終えて

歯学部長 宮崎 隆

歯学部教職員と同窓会の総力をあげて準備に取り組んできた歯学部創設30周年記念行事が、11月4日に無事終了しました。立川教授と久光教授を中心に多くの教職員と同窓生に準備から運営までお世話になりました。篤く御礼申し上げます。



式典には国内外からの来賓を始め、学校法人の役員および昭和大学関係者にも多数ご臨席いただき、小口理事長と細山田学長から心温まる式辞、そして日本私立歯科大学協会の中原会長、日本歯科医学会の江藤会長、さらには日本歯科医師会の久保会長から過分な祝辞を頂戴しました。ご臨席いただいた関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。



30周年を振り返ると今日までの道のりは決して平坦なものではありませんでした。しかし、学校法人の役員の皆様や医

学部および薬学部の諸先輩のご指導を仰ぎながら、創設以来の歴代の学部長ならびに病院長を始め、恩師、先輩そして多くの関係者が一致団結して難局に対処してきたお陰で今日の歯学部の発展があったものと深く感謝いたします。功労者の皆様に感謝状を贈呈させていただきましたが、その他にも多くの方々にお世話になったことを忘れてはいけません。



記念講演会では南カリフォルニア大学のスラブキン教授とセキグチ教授から、歯科医療と歯学教育に

関する将来展望について大変に刺激的な講演を頂戴しました。超高齢社会の国民の健康に貢献することを目標にした本学部の新カリキュラムの方向性は間違っていないと確信しました。これからも自信と希望を持って教育改革に取り組んで行きましょう。

30周年を迎えるにあたり、歯学部教職員、学生、同窓生を含めて、昭和大学の建学の精神である「至誠一貫」の原点に立ち戻り、医療系総合大学の一員として、医学部、薬学部、保健医療学部と一層連携して、国民の健康に奉仕し、社会に貢献できるように邁進したいと思えます。

歯学部創設30周年記念講演会開催

記念講演会委員長 中村 雅典

11月4日(土)に上條講堂において、歯学部創設30周年記念講演会を開催しました。「口腔から全身へ」というメインテーマで、



午前中は南カリフォルニア大学歯学部長の Harold C. Slavkin 教授と同副学部長であり元全米歯科医師会長である Eugene Sekiguchi 教授にご講演をいただきました。お二人はこれまでの歯科医学および歯科臨床の先頭に立ってこられた先生であり、その講演ではこれからの歯科医学、臨床のあり方、方向性について熱心に語られました。午後からは山本教授(歯周病)、井上教授(生理)、榎教授(歯科矯正)、小生の4人が歯科医療、口腔生物学の学体系として面白さだけでなく心理面までを含めた広がりについてのシンポジウムを行いました。また、各教室・診療科から研究発表(ポスター形式)が行われ、ポスター会場でも Slavkin, Sekiguchi 両先生を含めて、活発な討論が行われました。

本講演会が、昭和大学歯学部にとって、歯科医療、歯科医学の新しい展開のための道を開くきっかけになることを期待しています。



歯学部創設30周年記念式典・祝賀会 開催

式典・祝賀会委員長 上條 竜太郎

歯学部創設30周年記念講演会・式典・祝賀会を11月4日に開催しました。

記念式典はホテルオークラオーチャードルームで、350名が参加して開催されました。小口理事長、細山田学長、宮崎歯学部長、川和歯科病院長、飯島歯学部同窓会長が式辞を述べられ、宮崎歯学部長は「これからも歯学部の教育改革と充実に努め、大学理念である至誠一貫を通して、医療人の育成に努める」と挨拶されました。また、日本私立歯科大学協会会長中原



泉氏、日本歯科医学会会長江藤一洋氏、日本歯科医師会会長大久保満男氏がそれぞれ祝辞を述べられました。

次に、歴代の名誉教授、ご退職時に教授であった方々一人ひとりに、宮崎歯学部長から感謝状が手渡され、和久本名誉教授が代表して、お礼の挨拶をされました。

式典に続いて、祝賀会が同ホテルアスコットホールにて、400名が参加して開催されました。立川教授（口腔病理学）の開会の辞に続いて、東京都歯科医師会会長田中秀夫氏（代読、監事上野真人氏）、厚生労働省医政局歯科保健課長日高勝美氏、Harold C. Slavkin 教授がそれぞれ祝辞を述べられました。鏡開きに続いて、福原達郎名誉教授の乾杯のご発声で、祝宴に入りました。



祝宴では、学部間協定を結んでいる天津医科大学の史書俊氏と大連医科大学の馬国武氏から30周年記念の贈答品が送られ、歓談が続く中、久光教授（う蝕・歯内治療学）の閉会の辞と一本締めで閉会となりました。

歯学部創設30周年記念 記念誌発行

記念誌発行委員長 井上 富雄

創設30周年記念事業に関わられた皆様、お疲れ様でした。無事式典が終わってほっとしています。

記念誌につきましては、編集委員会でまず考えたのが、多くの人に読んでもらえる記念誌にしようということでした。そのために、A4版のカラー刷りにして



写真を多く入れ、堅苦しいハードカバーをやめてソフトカバーにしよう計画しました。費用面での心配がありました。創文社からハードカバーの単色刷りの本よりも低い価格を提示していただき、昭和大学から記念誌刊行費用をご援助いただける幸運にも恵まれ、計画を実行に移すことができました。そこで編集作業が具体的にスタートしたわけですが、日程的には、刷り上がり200ページの本を、3月末に原稿依頼して、11月4日の記念式典までに完成させるという、大変タイトなスケジュールでした。しかしながら、編集委員の先生方が寄稿をお願いした学内外の方々への原稿依頼、回収に大変精力的に活動してくださいました。また、ご執筆いただいた方々も短期間のうちにご入稿いただき、おかげさまで無事11月1日に完成させることができました。いただいた仕事が期限後に終わることの多い私にとって、これは奇跡と言えます。ご寄稿いただいた方々、編集委員の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

上條奨学賞 受賞者決まる

広報委員長 五十嵐 武

平成18年度上條奨学賞受賞者が決まりました。有益な学術研究業績ならびに教育上の功績に対して贈られる研究業績は、「歯科 X 線画像検査による患者被曝線量の低減」で岡野友宏教授（歯科放射線学）が受賞され、学術研究補助は「レーザーマイクロダイセクション法の外科病理学への応用」で入江太郎講師（口腔病理学）が受賞されました。

授与式は11月22日（水）の教授総会で行われ、細山田学長から表彰状が授与されました。



白菊会連合会総会開催

口腔解剖学 江川 薫

白菊会連合会平成18年度総会が11月5日(日)午後1時半より日比谷公会堂で開催されました。当日は晴天の中、白菊会連合会に加盟する11大学14学部の会員および同伴者が参加しました。昭和大学歯学部からは42名の会員および同伴者が出席しました。口腔解剖学教室の教室員が受付および座席への誘導にあたり、白菊会会員との交流を深めました。今年度の総会当番校である日本大学歯学部の大塚吉兵衛歯学部長の開会の辞で始まり、これまでにご献体を頂いた物故会員の方々のご冥福をお祈りして参加者全員で黙禱を捧げました。文部科学省高等教育局医学教育課長、日本解剖学会理事長、日本篤志献体協会理事長、篤志解剖全国連合会会長の式辞の後、加盟大学が紹介されました。



白菊会連合会総会は毎年11月頃開催され、会員相互の親睦の場ともなっています。また、日比谷公園の散策にもよい季節であり、総会の開場の前から来られて散策を楽しんでいる方々も見受けられました。

総会の後、出席者はコーラスの公演を楽しみ、来年の総会での再開を約束して午後3時半に閉会しました。



平成19年度歯学部推薦・編入学試験

入試広報委員長 山田 庄司

平成19年度歯学部推薦入学試験(23名募集)および編入学試験が(若干名募集)11月12日(日)に、旗の台校舎で行なわれました。推薦入学の志願者は99名(男子43名、女子56名)で昨年度の101名よりも2名減少しましたが、当日の欠席がなかったため、受験者は昨年と同数でした。編入学試験の志願者は21名(男子12名、女子9名)で昨年より1名増加しました。合格発表は推薦・編入学試験ともに11月14日

(火)に大学の掲示板とホームページ上で行なわれました。合格者は、推薦入試が24名(男子7名、女子17名)、編入学試験が5名(男子3名、女子2名)でした。

恒例となっている、推薦・編入学試験合格者に対する入学前学習に関する相談と指導が11月26日(日)に旗の台校舎で行われ、出席予定者全員が出席しました。これは、入学後の授業に無理なく適応できるように入学までの期間を利用して準備をしてもらうこと、および寮生活における集団生活に対する不安を解消し、充実した寮生活を送ってもらうことを目的として行われています。一方、編入学者は、1年間の寮生活で強固な友人関係が形成されている中に少人数で入学してくるため、人間関係の構築が困難であったり、入学後に予想以上のカリキュラムの過密さに戸惑う場合が見られるために、事前の説明を行っています。

平成18年度永年勤続者表彰式

歯学部長 宮崎 隆

去る11月14日(火)に上條講堂において、学校法人昭和大学の平成18年度永年勤続者表彰式が執り行われました。昭和大学の発展に伴って表彰対象者が年々増加し、本年度の対象者は、35年が14名、25年が57名、15年が96名、合計167名でした。小口理事長から対象者一人一人に、表彰状と記念品が授与されました。歯学部関係からは35年対象者として、歯科病院管理課の志賀耕二さんと立松憲一さんがめでたく表彰されました。

表彰式に続き、タワーレストラン昭和で懇親会が開催され、思い出話に楽しいひとときを過ごしました。各勤続年数の代表者から挨拶があり、15年を代表して、口腔生化学の上條教授が挨拶しました。歯学部関係の25年ならびに15年の表彰者は以下の通りです。(敬称略)今後も益々お元気でご活躍されますようお祈り申し上げます。

25年:瀬川和之(口腔解剖学)、諸橋富夫(歯科薬理学)、船登雅彦(歯科補綴学)、鴨志田聡(歯科病院栄養科)、高橋敏(歯科病院栄養科)、川久保良美(歯科病院中央技工室)、上村秀昭(歯科病院中央技工室)。

15年:上條竜太郎(口腔生化学)、倉林仁美(歯科矯正学)、代田達夫(顎口腔疾患制御外科学)、羽鳥仁志(顎口腔疾患制御外科学)、山下幸子(教務課)。



D2口腔の生態系PBL

PBL委員長 中村 雅典

12月から開始される2年生の統合科目「口腔の生態系」において問題基盤型学習 (Problem Based Learning: PBL)を行います。

PBL は自己主導型学習法であり、自らが問題を発見し、その解決を図るために自分は今何を知らないといけないのかを知り、その項目について自ら学習することであり、現在の大学教育において国際的に主流となってきた学習方略です。昭和大学では来年度から富士吉田教育部で PBL を用いて、4学部横断教育を行う予定となっています。

2年生にとって PBL はこれまでに経験したことのない新しい学習方法であるため、自己学習のスキルとして初日には図書館の協力のもと、図書検索の仕方等々を含めたオリエンテーションを行い、その後、シナリオに基づいた PBL を3週間にわたって行います。毎回のことですが、こちらが思いもしない発想が学生から出てくることがあり、とても楽しみにしています。

新任教授歓迎会(角田教授)

小児成育歯科学 井上 美津子

昭和大学歯学部創設時より第二口腔外科学教室(旧)に在籍され、昭和59年からは助教授として診療、研究、教育に幅広く活躍され、最近では共用試験 OSCE の歯学系の委員としても御尽力いただいている角田左武郎先生が、平成18年10月10日付けで歯学部顎口腔疾患制御外科学講座の員外教授に就任されました。10月18日の歯学部教授会終了後、旗の台のいこい寿司にて歓迎会が開催されました。宮崎学部長、川和病院長をはじめ多数の教授が出席され、角田教授からは、本年6月に新任された新谷教授を支えて、来年3月までの在職期間中は臨床や教育にさらに力を注がれるとの決意が語られ、なごやかに会は進みました。角田先生のさらなる御活躍をお祈り申し上げます。



学会賞受賞・表彰・昇任

広報委員長 五十嵐 武

受賞

・榎本 明子(歯科矯正学教室)

平成18年9月15日に開催された日本矯正歯科学会秋季学術大会において、優秀ポスター発表賞を受賞されました。

題名:「咀嚼変化が下顎骨成長発育に及ぼす影響について」

・大岡 貴史(大学院4年・口腔衛生学教室)

平成18年10月20日

に仙台国際センターで開催された第23回日本障害者歯科学会において、平成17年度日本障害者歯科学会優秀論文賞を受賞されました。



論文名:「障害児の摂食機能障害と粗大運動発達との関連性について」

・高橋 摩理(口腔衛生学教室)

平成18年10月20日に仙台国際センターで開催された第23回日本障害者歯科学会において、研究報告部門で優秀賞を受賞されました。

論文名:「CHARGE 連合患者の総合調査(第2報)栄養摂取方法及び及ぼす要因の検討」

昇任・配置転換

・田崎 俊之:助手(総合内科 10月31日付)

診療統計 (平成18年10月分)

医事課 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,947	717.9	707.6	747.6
入院患者	444	14.3	16.5	10.8

編集後記

広報委員(口腔微生物学教室) 深町 はるか

11月は秋晴れの日がとても多かったように思います。「秋の日は釣瓶落とし」、屋上から見ているとあっという間に富士山に沈む様子は風情あるものでした。

今年も残すところ1か月余となりました。12月は忘年会シーズンとなりますが、皆様、飲みすぎと飲酒運転にはお気をつけください。

最後になりましたが、細部までご指導いただきました広報委員長の五十嵐教授、また、ご多忙中の折、原稿をご執筆いただきました諸先生方、広報委員の先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。